

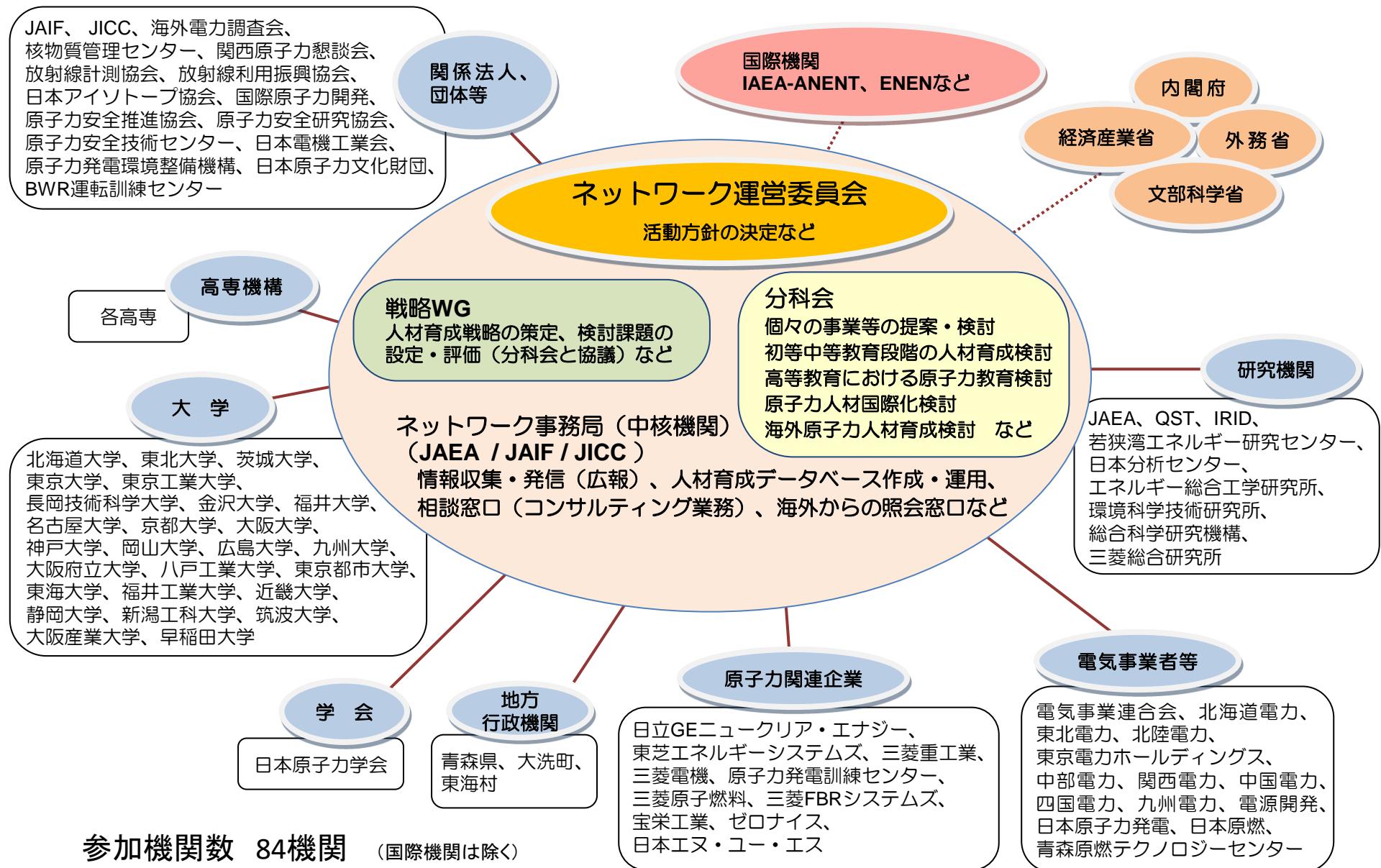
令和6年度「原子力人材育成ネットワーク」シンポジウム
令和7年2月13日(木)

ネットワーク活動報告



原子力人材育成ネットワーク 事務局

原子力人材育成ネットワーク参加機関



原子力人材育成ネットワークの体制

ネットワーク活動の基本方針の決定
委員長:増井(JAIF)

戦略立案実務。各分科会に課題設定、
検討結果の収集、評価、PDCA確認
主査:吉村(日立)

分科会:
機関横断的事業・活動の提案、検討
()内は事務局担当機関

1. 初等中等教育支援分科会(JAIF)
主査:藤本(長崎大学)

2. 高等教育分科会(JAEA)
主査:北田(大阪大学)

3. 実務段階人材育成分科会(JAIF)
主査:宮本(中国電力)

運営委員会
(委員19名)

事務局
(JAEA / JAIF / JICC)

運営委員会・戦略WGの事務
局運営・活動の遂行
事務局長:中野(JAEA)

戦略WG
(主査、委員4名、アドバイ
ザー1名オブザーバー1名)

協力連携

関係省庁連携会議
・関係政府機関(運営委員)
・運営委員長
・戦略WG委員

4. 国内人材の国際化分科会(JAEA)
主査:吉村(日立)

5. 海外人材育成分科会(JICC)
主査:小原(東京科学大学)

運営委員会委員名簿

(教育機関)

宇埜 正美	福井大学 附属国際原子力工学研究所 教授・所長
黒崎 健	京都大学 複合原子力科学研究所 教授
小林 能直	東京科学大学 総合研究院 ゼロカーボンエネルギー研究所 教授
鈴木 秋弘	(独) 国立高等専門学校機構 理事
鈴木 徹	東京都市大学 理工学部原子力安全工学科 教授
長谷川 秀一	東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻原子力リノベーション講座 教授

(電気事業者等)

大屋 雅巳	東京電力ホールディングス(株) 原子力・立地本部 原子力人財育成センター 所長
尾仲 直也	関西電力(株) 原子力事業本部 副事業本部長
浜田 誠一	中部電力(株) 原子力本部 原子力部 総括・品質保証グループ長

(原子力関連企業)

薄井 秀和	東芝エネルギーシステムズ(株) 取締役 原子力技師長
加藤 顕彦	三菱重工業(株) エグゼクティブアドバイザー
武原 秀俊	(株) 日立製作所 原子力ビジネスユニット エグゼクティブアドバイザー

(研究機関・学会・原子力関係団体)

櫻本 宏	(公財)若狭湾エネルギー研究センター 理事長
増井 秀企	(一社)日本原子力産業協会 理事長
門馬 利行	(国研)日本原子力研究開発機構 理事

(行政機関)

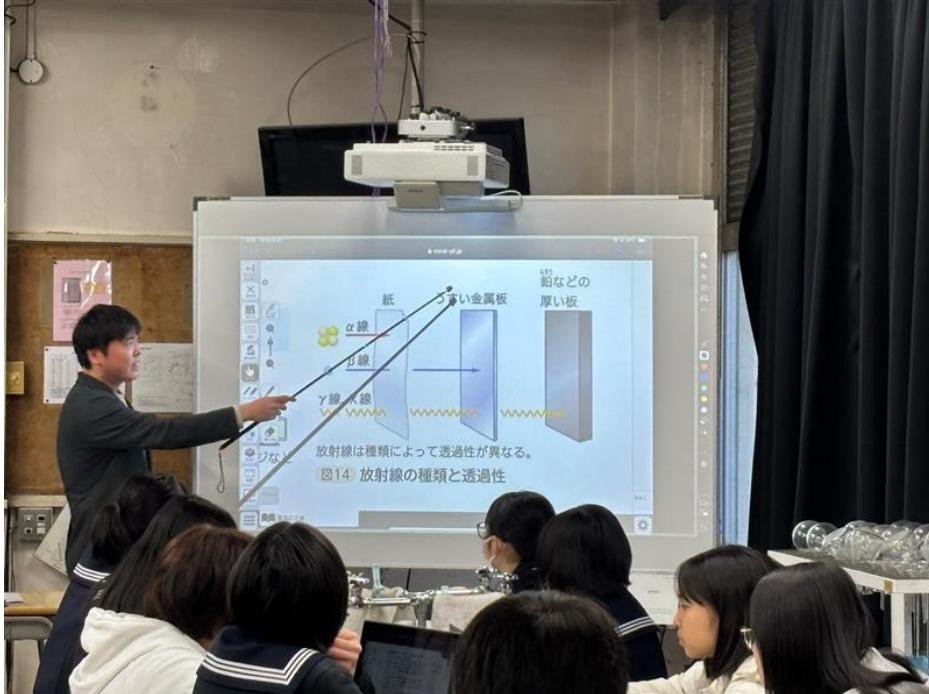
清浦 隆	文部科学省 大臣官房審議官 (研究開発局担当)
久米 孝	経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 部長
徳増 伸二	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官
林 美都子	外務省 軍縮不拡散・科学部 審議官

活動報告

初等中等教育支援分科会活動の報告

令和6年度の代表的な活動

初等中等教育支援分科会見学会



中学校での放射線授業、JAEA東濃地科学センター、名古屋大学年代測定研究部を見学し、初等中等教育に関する知見を得た

●見えてきた課題

生徒の興味をひく授業構成の重要性

→好事例の発信、教員向け施設見学会等を通じた研修機会の創出

全国中学校理科教育研究会・日本エネルギー環境教育学会



授業で使える放射線教育教材等を紹介し、エネルギー・ミックスを学べるポートゲーム等が関心を集めた



教育支援に関する教員へのヒアリング調査

→関連する教区研修会への参加、教員とのネットワーク構築

高等教育分科会活動の報告

令和6年度の代表的な活動

学生施設見学会

【開催日】令和6年8月1日(木)

【対象者】大学生、大学院生、高等専門学校3年以上

【見学先】関西電力(株)大飯発電所

【参加者情報】16名

男性12名、女性4名

原子力専攻8名、原子力以外の理系6名、文系 2名

専門分野: 工学、環境、情報、電気電子、機械、化学、物理、法学

日本国籍 14名、中国国籍1名、ベトナム国籍1名



関西電力(株)



エルガイヤ展示室

産学官の連携、学生、女性、シニア、様々な方々のネットワーク構築を通じて、高等教育を支援

ダイバーシティ推進活動

講演会

【開催日】令和6年7月31日(水)15:00～16:15

【演題】「海外でプロフェッショナルとして働く」

【申込人数】61名(対面6名)

ウェビナー

【開催日】令和6年11月26日(火)12:10～12:50

【演題】「キャリアと人生の「予想外」をポジティブに乗り越える」

【参加人数】54名

【開催日】令和6年12月19日(木)12:10～12:50

【演題】「原子力メーカーで歩んだ欲張りな働き方を振り返って
～母として、社会人博士として、そして管理職～」

【参加人数】81名

【開催日】令和7年1月10日(金)12:10～12:50

【演題】「多様性を活かすために
～気付こう アンコンシャスバイアス～」

【参加人数】55名

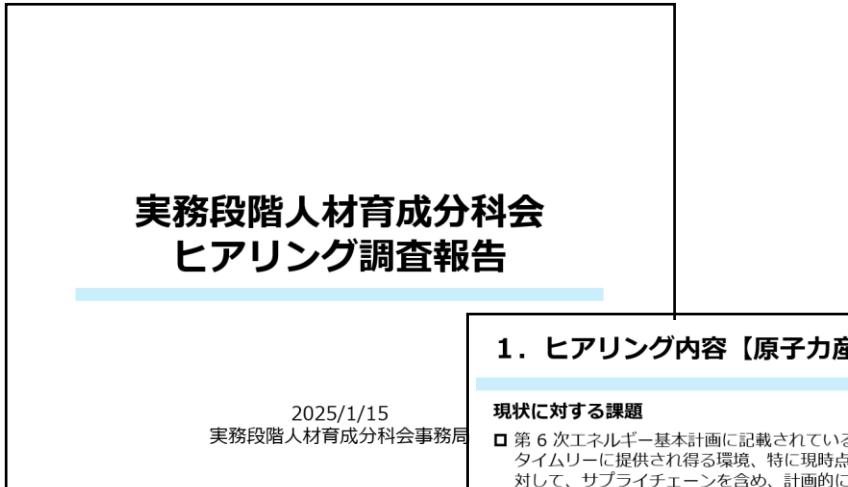
原子力学会春の年会企画セッション

- 原子力学会ダイバーシティ推進委員会と連携

実務段階の人材育成分科会活動の報告

令和6年度の代表的な活動

分科会委員への人材育成・獲得に関するヒアリング調査



- 原子力人材の獲得、原子力産業界の人材育成、产学連携促進に係る各社・各機関の取り組みをヒアリング調査を実施し、分科会として取り組むべき課題・施策をまとめた

高等教育との連携促進

高等教育分科会との意見交換会



- 近大・京大・JAEAの教育機関で保有する施設の現状と課題に関する意見交換を行い、教育機関と産業界の相互連携の必要性を再確認した

国内人材の国際化分科会活動の報告

令和6年度の代表的な活動

原子力国際人材養成コース



集合写真



外国人による講義の様子

オンライン: 令和7年1月15日(水)～17日(金)

合宿: 令和7年1月21日(火)～24日(金)

- 対面・リモートのカリキュラム
- 総合評価 4.93(5点満点)
- 若手14名に対し、原子力分野についての理解を深め、直面する課題を共有する場を提供、グローバルな感覚の疑似体験を提供

国際化強化意見交換会

令和7年2月10日(月)

室谷 展寛氏(OECD/NEA)

足立 文緒氏(UNIDO東京)

ボトムアップ中心の現在の活動から次に繋がる活動について

国際社会で日本のプレゼンスを示すということは

国際的な場面から何を得るか、何を得たいのか



室谷氏、足立氏との意見交換

国際化応援ウェビナー

令和7年3月11日(火)

『米国原子力研究の現場から: リアルな肌感覚と米国留学という選択肢』 櫻原 達也 氏(ピツツバーグ大)

令和7年3月最終週で調整中

核不拡散条約(NPT)とそれを担保するIAEA保障措置について

海外人材育成分科会活動の報告

令和6年度の代表的な活動

分科会の実施

- 6月11日 第1回 分科会(対面)
 - IAEA訓練コースの準備状況について
 - 各機関の活動状況(含む詳細報告: JICC)
- 1月10日 第2回 分科会(対面)
 - IAEA原子力基盤整備訓練コース実施報告
 - 各機関の活動状況(含む詳細報告: JAEA人材育成センター)
- 調整中 第3回 分科会(対面)
 - 戦略ロードマップへの対応状況
 - 各機関の活動状況

IAEA原子力基盤整備関連訓練コースの実施

- Japan-IAEA NEMスクール
 - 国際化分科会と共催
 - 8月20日～9月6日

■ IAEA 原子力発電基盤整備訓練(3週間)コース

- 11月4日(月)～22日(金)
- IAEAが原子力人材育成ネットワーク海外人材育成分科会と共に開催する訓練コース。このコースでは原子力発電新規導入(あるいは導入を検討している)国の若手または新規に原子力分野へ異動してきた人を対象に軽水炉技術とIAEA Milestone Approachに基づく原子力発電基盤整備19項目に関する知識を講義、訓練、グループ討議、施設訪問を通じて提供する。
- 16か国(エルサルバドル、エストニア、エチオピア、ガーナ、イラク、カザフスタン、ケニア、リトアニア、マレーシア、モンゴル、ナイジェリア、セルビア、シンガポール、スリランカ、タンザニア、ジンバブエ)から17名
- IAEA職員及びIAEA外部専門家計7名に加えて、日本側からJAEA:中野人材育成センター長、野呂ISCN室長、大倉人材育成センター課長、METI:川村課長補佐、NRA:安澤技術参与、東京大学:岡本教授、福井県:山本参事らによる講義実施
- 福島第一、浜岡原子力発電所、伊方原子力発電所、東芝京浜事業所等訪問



事務局活動の報告

令和6年度の代表的な活動

会議の実施、ホームページ管理、IAEA技術研修員受入事業サポート

JAPAN-IAEA 原子力エネルギー管理スクール開催



【開催日】2024年8月20日(火)～9月6日(金)

※日本では、2012年から毎年開催(12回目、2021年を除く)

【参加者】15カ国32名(うち女性7名)

【内容】

エネルギー戦略、核不拡散、国際法、経済、環境問題、原子力知識管理等
テクニカルツアー(中部電力、東京電力HD、JAEA等)

参加者によるスクールの評価 (5点満点)

各国NEMS共通のアンケートを実施

総合評価：4.8

質問項目	評価
スクールの技術的内容	4.6
講義資料等の質	4.5
開催期間(3週間; 14日間)	4.7
参加目標は達成できたか	4.7
講義は組織のニーズとリンクしていたか	4.6
講義は現実に即した内容でしたか	4.6
スクールの運営	4.9

戦略ワーキンググループの活動報告

令和6年度の活動

●人材育成戦略ロードマップ2023年度改訂版に基づいた各分科会活動の活性化に向けた実践的な成果へつなげる活動 <第1回>

日時：2024年10月16日(木)16:30～18:00

開催方法：オンライン(Zoom)

議事内容：- 今年度の戦略WG活動方針について
- 関係省庁連携会議実施内容報告
- INSTAについて

<第2回>

日時：2025年2月20日(木)15:00～17:00

開催方法：対面＋オンライン(Zoom)

議事内容：- 来年度の戦略WG活動方針について
- 関係省庁連携会議実施内容報告
- 魅力・将来性発信分科会(仮)の新設

2-1. 関係省庁連携会議（経済産業省）

面会者：原子力政策課 原子力国際協力推進室 川村課長補佐（海外）
原子力政策課 原子力技術室 藤本委員（初等・高等・実務・国際）

- 今後、どのようにロードマップに従って進めていくのか
具体的な活動にまで展開できていない。例えば、技術・人材マップを作るために現状を把握し、将来のシナリオをベースに需給状況を分析した上で需給ギャップを埋めるための施策を検討する必要があり、政府関係者と今後議論していきたい。
- ロードマップには誰が、いつまでに、何をやるかが書かれていないため、次へのアクションへ向けて真剣に議論していくべき
問題の所在は明らかにしたが、実施主体が政府、産業界や業界団体の項目については次へのアクションを行うための議論を関係省庁連携会議にて進めていきたい
- 各企業の情報開示の意識改革をどのようにするか、ネットワークを通じて議論できたらしい
- 各分科会会合は主査を中心に議論する中、開催頻度を上げて各社に実施項目を割り振るなどの負荷をかけることは難しい実情を考慮すると、ネットワークとして主体的に活動を推進していくという認識を合わせることが大事である
- 日本としての新興国支援の問題提起については、支援対象国の選定段階において各社の意見を参考にしたい

2-2. 関係省庁連携会議（文部科学省）

面会者：研究開発局 原子力課 有林課長（初等、高等、実務、国際、海外）
高倉課長補佐、長谷川調査員、小竹調査員

- ロードマップは何をもって目標が達成されることになるのか
原子力に対する国民の理解が深まつたとは、何をもって深まつたと判断するかは深く議論していない。分科会以外の実施主体の項目については、具体的なアプローチを考える必要があると問題提起している。
- ANECKの活動の一環として開催した「原子力オープンキャンパス」に参加した学生は200名以上であるが、実際には原子力業界に進んでいない実態に対して解決できる課題がないか模索している
- 産業界は、人材の獲得についてどのくらい危機感を持っているのか
温度差があると思うが、産業の求人情報に関して学生の感度が高く、求人に対して人員規模としては充足しているとの認識である
- アメリカでは企業が国家プロジェクトにボランティアでモノや人材を提供して学生との関係を築き、大学側は産業の視点から技術・知識の貢献を経験を提供する仕掛けができるとして、日本でも予算内で制度を運用するなど工夫できないか
- リカレント教育として大学にオーダーメイド教育システムを提供してもらうアウトソーシング化など、産業界の意見を伺い、ANECKの活動に反映していきたい

●今後の対応

- 運営委員会への報告
- 各分科会活動評価とフィードバック

- 魅力・将来性発信分科会(仮)との意見交換
- 関係省庁連携会議の継続実施

- WG会合の年3回開催